

# 主 論 文 要 旨

報告番号	㊦ 乙 第 <b>3918</b>	号	氏 名	井 田 陽 介
主 論 文 題 名				
検査完遂率向上を目指したカプセル内視鏡の低侵襲前処置法の検討				
( 内 容 の 要 旨 )				
<p>[検討1]小腸カプセル内視鏡検査結果を解析したところ232回中181回(78%)で全小腸が観察出来ており、大腸到達に関与する因子について単変量解析ではモサプリドクエン酸塩内服(OR, 2.19; p=0.01)、胃通過時間が45分未満(OR, 1.33; p=0.02)、BMI(p=0.02)が関与する因子の候補として挙げられた。多変量解析ではモサプリドクエン酸塩内服(p=0.048)と胃通過時間45分未満(p=0.022)が大腸到達に関与する独立した因子と判明した。さらにモサプリドクエン酸塩投与群と非投与群を比較したところ、胃通過時間がモサプリドクエン酸塩投与群で非投与群に対し平均通過時間18分対27.5分(p=0.02)、小腸通過時間が平均通過時間223分対266分(p=0.01)といずれも有意に短縮していた。よってモサプリドクエン酸塩により胃通過時間が短縮することで小腸カプセル内視鏡の大腸到達率が改善していると考えられた。</p> <p>[検討2]検討1の結果を踏まえてモサプリドクエン酸塩を使用した潰瘍性大腸炎患者に対する大腸カプセル内視鏡の新たな前処置法について検討した。検討は2相に分けて行い、第1相の10例は前処置法を適宜変更して行い適切な前処置につき検討、評価し、第2相の30例では第1相の結果をふまえてメトクロプラミド10mgとPEG 2L、モサプリドクエン酸塩20mgを2回服用する方法とした。本検討に起因する有害事象は認めなかった。また第2相において前処置薬を内服できなかった1例を解析対象から除外した。第2相の結果29回中19回(65.5%)において8時間以内に検査が完遂した。腸管洗浄度についても評価を行い、盲腸、上行結腸、横行結腸、近位左側結腸、遠位左側結腸それぞれについて、大腸カプセル内視鏡の洗浄度評価の分類に従い4段階(poor、fair、good、excellent)で評価したがいずれの部位でも良好な洗浄度(excellentおよびgood)が得られたのは50%以下であった。</p> <p>また同日大腸内視鏡を行い、通常大腸内視鏡における潰瘍性大腸炎の炎症度分類であるMatts scoreと、患者背景、大腸内視鏡検査結果を盲検化した4人の内視鏡医がカプセル内視鏡の結果から判定したMatts scoreとの相関につき評価したところ、相関係数は0.797と高い相関を認めた。以上より今回の前処置法は排出率、腸管洗浄度は十分でなく検討の余地があるが、大腸内視鏡検査画像とカプセル内視鏡画像から判定した炎症度スコア(Matts score)は高い相関があり、炎症の判定のみであればPEGを4L用いる欧米の前処置法は不要であると考えられた。</p>				